

●2021年度特別調査委員会一覧

<p>SDGs対応推進特別調査委員会</p> <p>委員長：伊香賀俊治</p> <p>2020.4～2022.3</p>	<p>2019年度にSDGs対応タスクフォースを設置。各委員会にアンケート調査を実施し、本学会のあり方について検討を開始した。これらをSDGsの17目標・169項目に照らし、再検討し、その行動指針を明確化し、分かりやすく会員に示し、本会が一丸となって取り組めるよう検討を行うことを目的とする。</p>
<p>建築のスクラップアンドビルドと保存・活用に関する特別調査委員会</p> <p>委員長：藤井俊二</p> <p>2020.4～2022.3</p>	<p>スクラップアンドビルドに偏りがちな現在の建築・都市再生から、保存・活用によるストック活用とのバランスを回復し、サステナブル社会の形成、建築文化の継承、良質な都市環境の維持をはかることを目指す。そのため、建築の専門各分野が協同し、社会科学や経済が連携して、市民との価値観の共有化も視野に入れて、現状の調査と有効な施策についての調査研究を行うことを目的とする。</p>
<p>ウイズ／アフターコロナに適応する建築・都市に関する特別調査委員会</p> <p>委員長：大月敏雄</p> <p>2021.4～2023.3</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が人間の生活・建築・都市に与える影響を明らかにするとともに、感染症対策が誘引したパラダイムシフトがもたらす建築学上の課題を明らかにし、パンデミックによるパラダイム転換に対応したアクションプランの指針提示を目的とする。</p>
<p>建築物の性能を保証する数値解析技術と資格制度に関する特別調査委員会</p> <p>委員長：大崎 純</p> <p>2021.4～2023.3</p>	<p>建築物の構造設計・環境設計のための数値解析結果の精度保証、ならびに学術論文の信頼性保証、解析技術を保証するための資格制度の創設、解析プログラムの妥当性確認のための実験結果の利用や計測技術の現状についての調査研究を目的とする。</p>
<p>デジタル・グローバル建築教育研究の環境整備に関する特別調査委員会</p> <p>委員長：竹内 徹</p> <p>2021.4～2023.3</p>	<p>デジタル化対応の人材育成と育成環境整備の手法の調査研究・提案、ならびにグローバル教育に寄与し得る教材・教育手法、国際影響力・海外発信力のある学術誌・設計規準のあり方の検討により、AIが建築物の安全性や人々のQOLの向上に資していくために、建築学がどのように取り組んでいくべきかについて指針を得るための調査研究を目的とする。</p>